

## 林羅山

### 2017 年追試

問 5 林羅山についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ  
選べ。 

24
----

- ① 自己の欲望を抑制する居敬の実践を重視するとともに、天皇への尊崇を説き、後の尊王思想に大きな影響を与えた。
- ② 天理を実現することを重んじ、そのための方法として、天理の具体化である礼儀法度を順守すべきことを説いた。
- ③ 多様な個性こそ人間の本質であると考え、それぞれの人間に個性を発揮させながら、全体として調和させることが道の働きであるとした。
- ④ 宇宙万物の根本原理である孝が、人間においては人を愛し敬う心として現れると考え、孝の実践を重んじた。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 5	24	②	2

2015 年本試

問 6 次のア～ウは、理想的な人倫や、それを実現するための実践をめぐる様々な考え方を示した、江戸時代の思想家についての説明であるが、それぞれ誰のことか。その組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。

25

ア 近世の封建的身分秩序のなかで、善を実現するには、居敬窮理の工夫が必要であると説いた。居敬窮理とは、欲望を抑えて心身をつつしみ、天地や人倫の秩序を根拠づける上下定分の理を、明らかにすることである。

イ 農民に寄生する武士が支配者として上に立つ当時の社会を批判し、理想社会としての自然世へ復帰すべきであると説いた。自然世とは、すべての人々が平等に田畑を耕し、衣食住を自給する社会のことである。

ウ 農業とは天道と人道があいまって成立する営みである、との考えに基づき、勤労や儉約といったあるべき生活態度を説いた。天道とは自然の営みのこと、人道とは、そこから人間が恵みを得ようとする作為のことである。

- |   |   |      |   |      |   |      |
|---|---|------|---|------|---|------|
| ① | ア | 藤原惺窩 | イ | 安藤昌益 | ウ | 石田梅岩 |
| ② | ア | 藤原惺窩 | イ | 安藤昌益 | ウ | 二宮尊徳 |
| ③ | ア | 藤原惺窩 | イ | 貝原益軒 | ウ | 石田梅岩 |
| ④ | ア | 藤原惺窩 | イ | 貝原益軒 | ウ | 二宮尊徳 |
| ⑤ | ア | 林羅山  | イ | 安藤昌益 | ウ | 石田梅岩 |
| ⑥ | ア | 林羅山  | イ | 安藤昌益 | ウ | 二宮尊徳 |
| ⑦ | ア | 林羅山  | イ | 貝原益軒 | ウ | 石田梅岩 |
| ⑧ | ア | 林羅山  | イ | 貝原益軒 | ウ | 二宮尊徳 |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 6	25	⑥	3

2013 年本試

問 4 林羅山が考えた窮理に基づく実践として正しいものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 

24
----

- ① 真実無偽
- ② 万人直耕
- ③ 存心持敬
- ④ 知行合一

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 4	24	③	2

2012 年追試

問 6 次のア～ウの朱子学者たちの説明として最も適当なものを，下の A～D から  
選びその組合せとして正しいものを，下の①～⑧のうちから一つ選べ。 18

ア 山崎闇斎                      イ 新井白石                      ウ 林羅山

- A 朱子学に基づき，政治の場面で活躍するとともに，イタリア人宣教師シド  
ッチとの対話に基づいて，世界の地理や風俗を記述し，朱子学の立場からキ  
リスト教の教説に対する批判を述べた。
- B 心をつつしむ修養の厳格な実践を説き，後に儒教と日本の神話とを結合さ  
せた垂加神道と呼ばれる独自の神道説を唱えた。また，京都に塾を設け多く  
の門弟を養成した。
- C 従来の朱子学者は日本の神々を中心に考えてきたと批判し，朱子のみを尊  
ぶ立場を選び，家や国家を超えた理に基づいて考えるべきだと説いたため，  
師に破門された。
- D 万物を貫く普遍的な理を想定し，人の心のうちに宿る理を善とした。理の  
正しい発現を妨げる人欲を悪とし，善の発現に向けて，事物の理を窮め，心  
をつつしむ修養を説いて，官学の祖となった。

- ① アーB    イーA    ウーD  
② アーB    イーC    ウーA  
③ アーA    イーC    ウーD  
④ アーA    イーD    ウーC  
⑤ アーC    イーD    ウーB  
⑥ アーC    イーB    ウーA  
⑦ アーD    イーA    ウーB  
⑧ アーD    イーB    ウーC

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第3問	問6	18	①	3

2009 年本試

問 1 文章中の  に入れるのに最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ  
選べ。

江戸幕府に仕えた  の唱えた上下定分の理という言葉からも分かるように，  
当時，学問の主流では，現世に関心がおかれていた。

- ① 新井白石      ② 熊沢蕃山      ③ 林羅山      ④ 山崎闇斎

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 1	14	③	2

2000 年追試

問 2 林羅山の考え方と賀茂真淵の考え方との背景には共通の思想があったと考えられる。その思想についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 

24
----

- ① 自然法爾じねんほうにのはたらきを信じれば、煩惱を捨てることができなくても人間は救済されうることを説いた。
- ② 無為自然の生き方にたって、富や名誉への執着をおさえ、人と争わずに無理なく生きることを説いた。
- ③ 花鳥風月の姿をめで、毎年繰り返される季節の推移と対比して人の世の無常を説いた。
- ④ 知行合一の実践論に基づき、一介の庶民であっても自然界の一員としてその将来に責任を負っていると説いた。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 2	24	②	3